

驚馬でも千里をいけるのは、弛まぬ努力によるものだ

鞠千里

留学することは、多くの人々の目には前途悠々とした将来像と羨ましさを映し出しているでしょう。しかし、私のこの文章から、地道に頑張ってきた人の本当の留學生活をお伝えしたいと思います。2013年7月、私は長春工業大学機電工程学院を卒業し、その後すぐ来日し、現在東京理科大学大学院工学研究科に在學しています。

私は普通の家庭に生まれ、地方都市に住み、普通の大学に進学し、決してエリートではありません。留學が実現できたのは親の支援があつてのことです。

日本に来てすぐ東京の綺麗な町並み、新鮮な空気、忙しそうに働いている人々の姿に魅了され、日本という国を好きになりました。その後、すぐに日本の生活に慣れ、日本語も少しずつ上達してきました。日本に来てから、私は多くて毎週二日、三日しかアルバイトをしていなかったの、周りの友達に「お金持ちですね」とからかわれたこともよくありました。自分は決してお金持ちではありません。しかし、お金よりも勉強の時間を確保することのほうがもっと大事だと思います。

若い私たちにとって、時間のほうがもっと価値があると思います。第一に、大学を卒業した大人なので、早く自立しなければなりません。第二に、自分の日本語力は他のクラスメイトと比べるとまだまだ低いので、その遅れをすぐにでも取り戻したいと思いました。第三に、10月生の私にとっては、一年半の間に進学するチャンスが一回しかありません。私は2013年10月に入学したので、2014年4月の入試には絶対間に合いません。残りのチャンスは2015年4月進学だけです。

2014年の夏から、本格的に受験態勢に入りました。大学院進学のことについて何も知らなかった私に、先生方は学校選びから研究計画の作成まで様々なサポートをしてくださいました。先生方の助言とアドバイスがなかったら、今の教授と出会うこともなかったと思います。従って、特に大学院進学希望の学生にとっては、日本の大学院進学の情報と学習方法は国内で経験したことがないので、先輩と先生の意見を聞くのは本当に重要です。大学院進学先と研究テーマを決める際に、亜細亜友之会外語学院の先生方がとても貴重なアドバイスをしてくださいました。先生との進学相談を通じて、自分の知らない情報を得ることができて、本当に効率的に学習することができました。

自分にどの位の才能があるのかは自分が一番分かっています。頭がそんなに良くない自分が、ここまで来られたのは夢を諦めずに勉強を続けたからです。大学院に合格できたのも先生方のサポートと指導があつてのことです。「驚馬でも千里をいけるのは、弛まぬ努力によるものだ」という諺があります。この諺を信じて、ここまで歩いて来られたのです。

戸惑った時に正しい方向へ導いて下さった先生方、色々な知識を教えて下さった先生方、生活の面でも色々面倒を見て下さった先生方、本当にお世話になりました。ここで、もう一度感謝を申し上げたいと思います。